

会員数	94,303	(前月比) -	55
手配り	26,620	(前月比) -	489
郵送	9,324	(前月比) -	42
会員世帯数	41,311 (5/31現在) [前月比 8減]		
協同基金到達額	2,323,171,000円 (5/31現在)		
	[前月比 27,688,000減]		
協同基金出資者数	23,208名 (5/31現在)		



発行
健康友の会 みみはら
民医連
本部事務局組織部
機関紙編集委員会
〒590-0821
堺市堺区大仙西町6丁184-2
Tel.072-244-8061
Fax.072-244-7860
1部 30円

健康友の会みみはら 第38回 総代会



森専務理事



江戸会長

最初に建井副会長より開会の宣言。議長に新金岡支部の長井代議員、高石北支部の山中代議員を選出し、総代会が進行しました。

主催者を代表して江戸会長より「昨年からの取り組んでいた鳳フリニツクの建て替え、堺区エリアのコミュニティ棟・高齢者施設がこの4月に完成しました。また、友の会40周年記念イベントが昨年11月に開催され、13

00人以上の参加で大成功を収めることが出来ました。全てみなさんのご協力のたまものとありがたく思うとともに、力を合わせれば、いろんなことができるという確信に繋がりました。25年度はまた新しく第1歩を踏み出す1年として皆さんと一緒に知恵を出し合い、力を合わせてともに頑張る1年にしたいと思います」と挨拶がありました。

続いて、来賓の挨拶があり、その後、法人を代表して、森専務理事からは2025年度法人スローガン「①みみはら2030年の樹②同仁会の事業内容を活かした『地域アウトリーチ』③安心のまちづくり・ネットワークの拡大」をメインに取り組み、10～20年後の地域社会の姿を見据え、無差別・平等の急性期医療を維持し、超高齢社会の医療・介護の複合ニーズに応える「無差別・平等の地域包括ケア」の展開へ歩みを進めると述べられました。

篠原事務局長からの第

多世代が気軽に参加できる わくわくする取り組みを

6月7日、健康友の会みみはら第38回総代会が、代表世話人、代議員、来賓、オブザーバーを含め、110人を超える出席で開催されました。



「認知症マフ」の取り組みを説明する長井さん

1号議案「2024年度の総括と2025年度の方針」では、2024年度の活動について、友の会40周年記念のつどいを開催し、1300人以上が参加したことを報告。今後も「健康づくり」は「人づくり」をスローガンに2030年の樹の構想実現に向けてわくわくする取り組みをしていくことが提案されました。

第2号議案では「友の会会則改定案（会員・総代会についての会則改定案）」が提案されました。

指定報告では、①新金岡支部での「認知症マフ」の取り組み ②高石



退任挨拶をされる森島さん

みみともセンターでの取り組み ③「鳳新フリニツク」オープン ④「地域コミュニティ棟・みみつぱ」オープンの4つの報告を受けました。

議案については第1号議案、第2号議案ともに全会一致で可決。新役員体制と総代会アピールも拍手で確認され、退任される代表世話人の4人を代表して森島さんから退任挨拶があり、長らく務めた会長の苦労話や会長就任の裏話などをお話いただきました。すべての議案が採択され、土井副理事長の閉会挨拶で締めくくりました。

夏の合併号のお知らせ

いつも「とも・同仁会報」をご愛読いただきありがとうございます。

次回、8月と9月が合併号となります。

ご理解とご協力をお願いします。

聴診器

厭戦という言葉。私がこの言葉に出会い、深く感銘を受けたのは昨年の夏。辞書を紐解くと、戦争を厭（いと）い、避けようとする事・嫌悪する事とある。「好戦」の対極にある言葉だ。「敵基地攻撃能力」等の「勇ましい」「攻撃的な」言葉が使われるこのご時世、未恐ろしいものを感じているのは私だけだろうか▼2025年1月24日の朝日新聞で、北山修さんの記事を読んだ。1960～70年代に一世を風靡したフオークルセダーズのメンバーで作詞家、京都府立医大生(当時)↓精神科医↓現在は白鷗大学学長だ。記事には「戦争を知らない子供たち」に対する強い思い入れが書かれている。「戦争はイヤだ、戦いたくない」という気持ちを素直に表現できることが大事。あの曲は反戦歌ではなく厭戦歌。この曲は勇敢さが称揚(注)ほめあげる事される時代になればなるほど歌われにくくなる、今まさに日本はそうなりつつあるのではないかと感じていた。▼記事の内容はさらにさらに奥深い。私には肌感覚としてとても響きあう記事だった。くしくも今毎朝楽しみに見ているNHKの「朝ドラのあなぱん」。主人公のたかしの思いはまさに厭戦(えんせん)ではなからうか? この言葉はもっともっと使われても良い言葉だと私は思う。(岡本裕宏)